



卷之二



414  
A 2916

大正十一年四月



乞恩以書付某上承

今般急難固湧會社號五五付雖有仕合其船  
依舊飛不及固湧向之修付日來若急付差  
易為布告多日通日午製造之船多處難破  
患為之付過多不妙西洋形之大船固付多處  
濟多處付西洋形之船所拘者多處  
体及難為布告付上種狀多處為之  
今日致之免角高令大船賞入商法れ貳り者少く

支那の日本船は遠く其の大きさに價する不費と不少且  
自然大風激波に遭ひる者多し候今西洋取之船も  
沈没不仕事難し也。在日居る白毛國。今日まで積  
合したる量は前般積等の大船勿子油底に漂  
居る事多し。是れ等は並車一船二艘も前史入販代に  
高人手の浚渫を多め致す。其手出費は後尚多く  
あり。西洋各國焉を又は遠く日本船を輸入する所  
舶貿入販賣船目利く者多く。船之造修益極号

黙換算。一舶得利其例三疊者素組合て  
博と賣合會社。博上賣合内附せん。尤傍合料にて  
年々船代之計割がる。古會社下の者等と之  
第一破船致し。通會社。船元代主。海府再び  
元。此船貿入出來の仕法。是度を加之。續航船も向報  
多合内附せん。か船持行。是等里。遠くに出でる  
更に船主母子をあらし。又三疊。立つ上。是難船也。  
仕事。實に其利多。陸山。美信致。勿西洋諸國。

年、船役お譲り、越後守、神戸金守、社主、船役  
增加、経費は、支度、諸合料、お譲り、何お居て  
破損、數年、以て平均、仕事、金社主利潤、定て  
莫大、舟人、今其、金社、金出、一、金合、元金、  
利津、不、予、其、皆、み、次第、元金、お譲り、高  
大、金、舟、社、お成、越後、平

寛國、於、主、主、仕様、最役、お、西洋、取扱、  
船、請合、お附、高人、主、主、業、官、外、船、仕事、主、

者、仕法、在、而、候、令、沈役、數、再、入、元、如、  
私、買、公、相、お、事、在、主、大、私、買、入、高、法、お、勝、以、志、  
多、方、出来、在、事、如、也、私、高、之、多、之、多、  
思、して、更、其、心、是、中、高、下、之、者、大、主、陳、方、  
高、被、役、以、是、之、是、度、也、而、多、之、不足、  
者、代、宣、役、數、不、少、為、右、也、と、更、合、元、金、  
それ、三、孫、弟、固、渕、金、社、下、下、渡、主、金、  
模、漫、表、油、卷、画、ノ、般、理、方、主、  
金、社、主、達、主、於、

乃の貿易も古元金より少く傳ひて居付

破食指あらま船を以て、公家より賃附する  
一月支方五厘の利子の算定を示す

其外諸合办附者  
多額の賃渡金を差すが如き、之割合等の利子は差違ある事  
爲是二年、平均二割余りを率て可也。其之上  
月ニ利子割加し更に合意せば賃附あり。利子等を或  
年中並立するに於て一倍の事高賃船と請合仕  
一年平均の艘々被換故第十九年平均  
仕場の後矢を相並べ从つて利子を或事等

西洋各國の凡て本錢足らず居候傳付  
兵士の者を治伊行役卒は幾ツ採用者を  
里官の社員は建主本浦上請合元金を三倍  
業者以下渡金を亦仕合奉仕局は萬石有農業  
技術者等を多く辟勵急務強高法本勵之下  
先づ之に核較る高法本算り承うれ及ぶ者  
思考仕合の仕法の採用之事不啻此於事  
私共一同急手をあつて元金の備へて因へ本弱者

はまゆ行宿の移動を起すと右前を通る  
佐渡守長細の往復元詞を起すと後  
佐渡守長細の上り上

午二月

横暖無事平日

中尾

徳吉博

同地著道草日

門石

聖源節

同三丁目

門石

聖源節

圓滿也魚り

満役人底中様

